
世界認定推進の日

認定

サステナブルな経済成長と環境をめざして



#WAD2022

世界経済は、健全な生態系から供給される天然資源に大きく依存していながら、私たちはこの生態系に膨大なストレスを与え、驚異的なスピードで資源を消費し続けています。国連(UN)環境の「世界資源アウトルック 2019 世界資源アウトルック 2019」によると、

生物多様性の損失や水ストレスを引き起こす原因のうち 90% が、また、温室効果ガス (GHG) 総排出量のおよそ 50% が資源の採取と加工が原因で引き起こされました。

長期的な経済成長のためには、生物多様性保護政策だけでなく、資源集約性が低く、気候変動の緩和と二酸化炭素除去に焦点を当てた、より持続可能な生産様式への大幅な転換が必要です。

「地球を犠牲にして成り立つ経済成長は、どう考えても持続可能とはいえません。私たちの課題は、地球上で利用できる手段を駆使してすべての人々のニーズを満たすことです。この野心的ながら重要なビジョンの実現には、政府、企業、市民社会、そして人々皆が、進歩によって得られる理解の再形成を促し、人々の選択や、ライフスタイル、行動を革新的に作り変えていくことが求められています。」

— ジョイス・ムーヤ 国連環境計画事務局長代理

認定は、計量、標準化、適合性評価、マーケットサーベイランスなどを含む他の質の高いインフラ手段とともに、この変化を支援することができます。第三者による適合性評価サービス（試験、検査、認証、妥当性確認、検証）は、製品、サービス、システムが規定または要求された要求事項に準拠していることを確認し、適合性評価機関（CAB）の認定は、その結果が信頼に足るものであることを保証するものです。規格への準拠を検証することで、認定は消費者を保護し、貿易における技術的・経済的障壁を取り除き、製品やサービスが世界へ進出する機会をもたらします。

IAF 及び ILAC の相互承認取決（IAF MLA、ILAC MLA）への署名は、「一度認定されれば、どこでも受け入れられる」ことを目指し、互いの認定を同等のものとして認めて

います。

ILAC MRA と IAF MLA の傘下で、認定と認定された適合性評価サービスは、地球を守ることを目的とした政策と行動の実施に重要な貢献をしています。

認定された適合性評価により、CO₂ 濃度が規定値を遵守しているか、産業界からの排出物が許容範囲内にあるか、有機食品のトレーサビリティが明確であるかなどを確認し、環境保護をサポートすることができます。ポーランド認定センター（PCA）の認定を受けた研究所では、土壌や地面のサンプルに含まれる汚染物質を検査し、土地利用や土壌再生、修復に関する決定に役立てています。また、2022年北京冬季オリンピック組織委員会は、カーボンニュートラルへの取り組みとして、中国合格評定国家認可委員（CNAS）認定の認証機関により認証を受けた、サステナビリティ・マネジメントシステムを採用しました。

認定： 徹底した規格の遵守により環境を保護する手段

現在、地球が直面している大きな脅威のひとつが生物多様性の損失であり、ほとんどの科学者が、自然な絶滅速度の何倍もの速さで種が消滅しているという意見に同意しています。国連環境計画では、生物多様性の損失の主な原因として、汚染、生息地の喪失、気候変動、資源の乱獲の4つを挙げています。

規格を使うことで組織はより環境に優しい手法を採用することができ、認定された適合性評価によって組織が規格上の要求事項に適合し、要求を満たしていることが保証されます。世界的に見ると、スキームオーナーはさまざまな適合性評価スキームを開発し、これに対して認定機関は環境に関連したパラメータへの準拠を保証するための認定を与えています。ある経済圏の規制当局も、同様の制度を開発しています。

認定機関、規制当局、他のスキームオーナー及び適合性評価機関は共に、この生態系の持続可能性に貢献します。

大気、水、土壌の汚染は、環境と人間の健康の両方に大きな悪影響を及ぼします。そして汚染は、水や土壌の酸性化、作物へのダメージ、気候変動、光合成の減少、食物連鎖での毒性蓄積、有害有毒藻類ブルームの発生、魚の雌性化、種の喪失など、さまざまな環境影響を及ぼします。ISO 14001（環境マネジメントシステム - 要求事項および利用の手引き）において、組織は、汚染、気候変動の緩和と適応、資源の使用と効率など、業務に関連するすべての環境問題を考慮することを要

求されています。環境
マネジメント

システムを利用することで、組織は環境パフォーマンスを向上させ、規制への準拠を達成し、水やエネルギーの使用量を削減するなどの成果を上げ、コストを削減することができます。

オランダ政府は自国の農業が環境に与える影響を緩和するため、環境ラベル財団である SMK による「On the way to PlanetProof」という自主的な品質表示認証スキームを2018年に開始しました。この制度は、国内および国際取引用の食品と花卉を対象としています。このラベルが付いた製品は、エネルギーと気候、作物生産、土壌、施肥、動物福祉と健康、景観と生物多様性、廃棄物と材料使用、水の分野で100以上の要件を満たす必要があります。

この著しい成長を見せるサステナビリティラベルは、2017年には約300の農家、園芸家、その他の事業者が認証を受けていましたが、

2021年には2,800以上の事業者がプログラムに参加するまでに増加しました。消費者の環境問題への意識が高まる中、製品の持続可能性は重要な差別化要因となり、より持続可能な製品の方が



競争優位性を獲得することができます。「On the way to PlanetProof」では、農家、園芸家、事業者が持続可能な活動を行っていることをサプライヤーや顧客に保証し、事業や国民経済に利益をもたらしています。

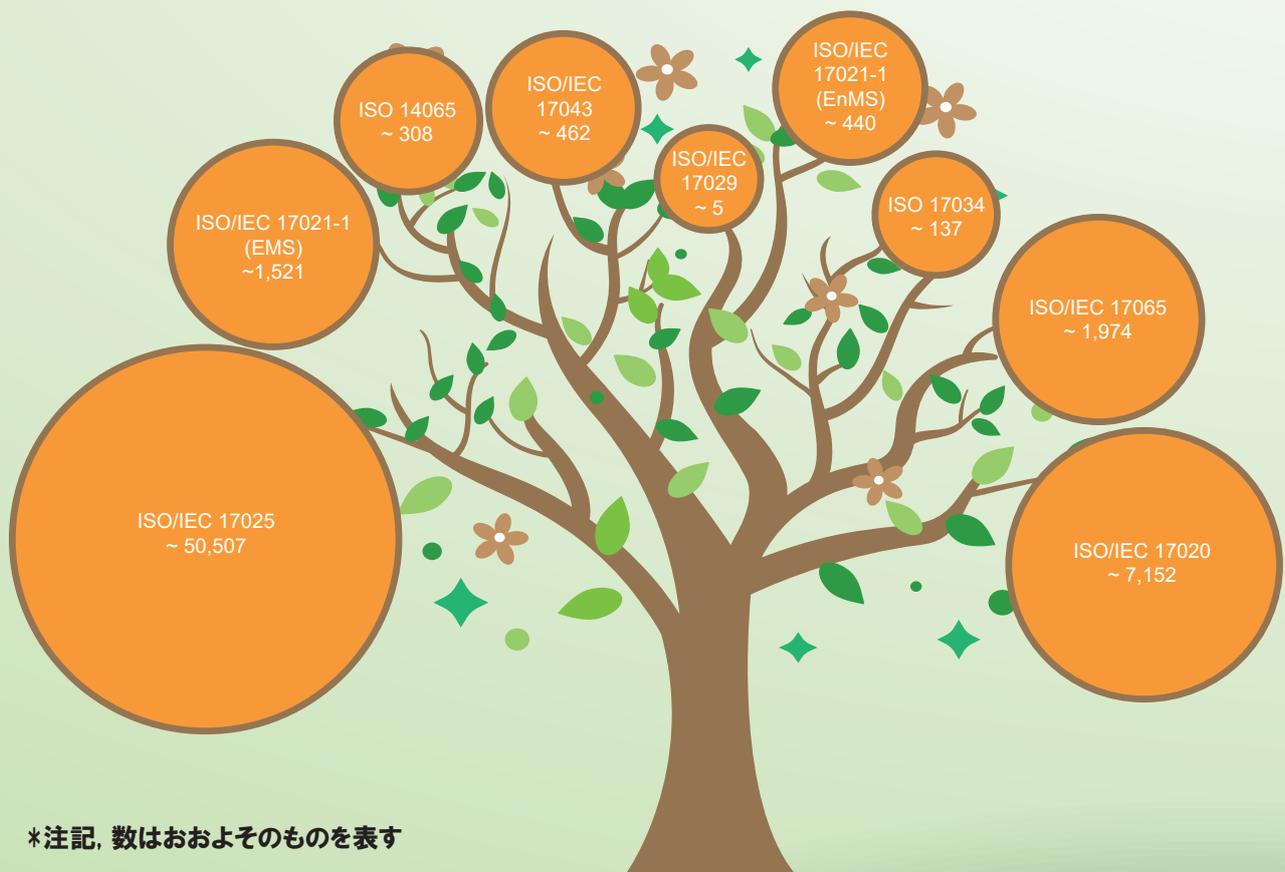
16 億人以上の人々が生計を森林に依存しているにもかかわらず、2015 年から 2020 年にかけて、世界で毎年 1000 万ヘクタールの森林に対して土地利用の転換が行われています。マレーシアでは、マレーシア・パームオイル認証評議会が所有する「マレーシア・サステナブル・パームオイル (MSPO) 認証スキーム」により、パームオイル産業における森林破壊に対処しています。MSPO スキームは、マレーシア国内法と批准した国際条約に基づくマレーシアの国家的なスキームです。持続可能性への取り組みを国家レベルで効果的に実施するため、MSPO スキームは 2020 年から義務化され、マレーシア規格局の認定プログラムのもとで運営されています。MSPO 制度は、森林破壊に対処するとともに、パームオイルが環境的・社会的に責任ある方法で生産されたことを消費者に保証することで、マレーシアの経済にも貢献しています。

気候変動は、現在、人類が直面している最も喫緊な課題の一つとなっています。日本では、ごみ焼却炉から放出される排ガス中の一酸化炭素や酸

素濃度などをガス分析計で厳密に測定しています。ガス分析計は、計量法および環境省のマニュアルに基づき、計量トレーサビリティを確保するため、認証された標準ガスを用いて定期的に校正する必要があります。標準ガスは、JCSS (Japan Calibration Service System) の認定を受けた標準物質生産者から提供されています。これらの標準ガスは、国家計量標準へのトレーサビリティが確保されているため、信頼性の高い測定結果を得ることができます。JCSS 標準ガスは認定試験所に供給され、信頼性の高い測定結果や気候変動に対応した大気管理に貢献することができます (SDG13)。

環境対策、そしてその後にはひいては世界経済と、取り組まなければならない課題は山積しています。しかし、規格と認定された適合性評価は、持続可能な開発目標の達成に向けて努力する中で、人間が環境に与える影響を軽減する一助となります。

IAF MLA と ILAC MRA の署名機関への調査が行われました。その結果として、2021 年に、各認定機関が関連する IAF MLA と ILAC MRA の対象のもと、環境／持続可能性セクターに作用するあるいはサービスを提供する適合性評価機関を認定した数を以下に示します。



*注記, 数はおおよそのものを表す

認定と環境の持続可能性

さまざまな規格や制度は、企業、産業界、規制当局が環境に配慮した政策を実施する際の指針として役立ちます。これらの規格の認定された適合性評価により、規格が適切かつ一貫して適用されていることが保証されます。

試験及び校正に携わる ISO/IEC 17025 の認定を受けたラボラトリーは、水質・大気・土壌・騒音・廃棄物の分析による公害対策や、エネルギー効率の分析による排出量削減をサポートしています。

試験及び校正

ISO/IEC 17029 の認定は、ISO 14064-1 および 14064-2 (GHG)、ISO 14067 (製品のカーボンフットプリント)、ISO 14046 (ウォーターフットプリント) など、または VERRA などの民間制度や ICAO CORSIA をサポートしています。

妥当性確認及び検証

ISO/IEC 17043 に基づく認定は、水や土壌などの環境関連分野における技能試験 (PT) プログラムの確立と実施に携わる提供者の能力を保証します。

技能試験提供者

認定は、ヒト、動物、微生物、植物、菌類などの生体試料を管理するバイオバンク施設の ISO 20387 の実施によって、その信頼性を保証します。

バイオバンキング

認定された認証活動は、持続可能な取組みや環境をサポートするうえで重要な役割を担っています。これには以下が含まれます：

- ISO/IEC 17021-1 に基づくマネジメントシステム認証。例えば、ISO 14001 (EMS)、ISO 50001 (EnMS)、ISO 46001 (WEMS)、PEFC 森林管理など。
- ISO/IEC 17065 のスキームに基づく製品認証。例えば、GOTS、Textile Exchange、オーガニックスキーム、GLOBAL G.A.P.、フレンド・オブ・ザ・シー、PEFC CoC など。
- ISO/IEC 17024 を用いた要員認証。例えば、環境の専門家、エコラベル関係者、エネルギー審査員など。

認 証

ISO 17034 の認定は、環境に関するパラメータのモニタリングのために行われる試験や検査の際、使用される標準物質 (RM) の製造に携わる生産者の能力を証明します。

標準物質生産者

ISO/IEC 17020 の認定を受けた検査機関は、大気汚染検査や自動車排ガス検査など、環境・安全を守るための活動を行っています。

検 査

気候変動対策に貢献する認定スキーム

気候変動は、環境と世界経済の両方に脅威をもたらします。気温の上昇、海面上昇、異常気象は、インフラにダメージを与え、人々の健康に影響を与え、農業や漁業に悪影響を及ぼす可能性があります。長期的な経済的繁栄のためには、気候変動を緩和すると共に適応していくことが求められており、それを左右するのは「気候に配慮した」、または「カーボンニュートラルに向けた」経済活動の変化です。

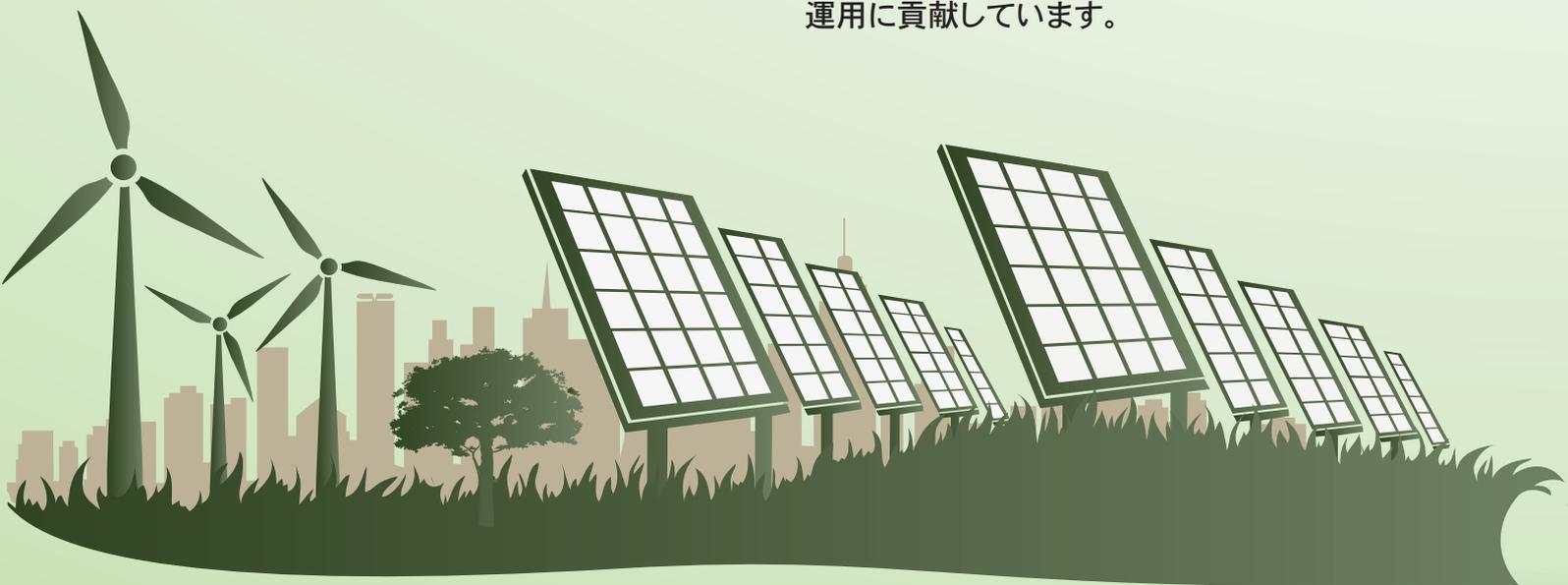
認定された試験、測定、検証および妥当性確認サービスの利用によって、気候変動の脅威に対する全世界の取り組みを強化します。例えば、エネルギー効率化プログラム、再生可能なエネルギー供給、炭素価格設定などの公共政策において中心的な役割を担うこと、低炭素プロジェクトへの融資を行うこと、低炭素ソリューションの推進や ICAO CORSIA などの排出量削減制度を奨励すること、が挙げられます。

気候変動の目標を実現するため、組織は効果的かつ効率的なプロセスを持つことが必要です。また、排出量に関する主張の裏付けとして、比較可能かつ検証可能なデータを持ち、それらの主張が独立して検証されることが不可欠です。適合性評価機関が公平で技術的に力量があるのは、ISO 14065（環境情報 妥当性確認及び検証する機関の一般原則及び要求事項）や ISO/IEC 17029（適合性評価 - 妥当性確認及び検証機関の一般原則及び要求事項）のような関連する国際規格に適合しているためであり、認定によりそれを証明することができます。また、別の規格である ISO 50001（エネルギーマネジメントシステム - 要求事項及び利用の手引）は、環境劣化防止に重要な役割を果たし、多くの組織がエネルギー消費量の削減、エネルギー効率の向上、エネルギー使用全体の

最適化のために、エネルギーマネジメントシステムを運用しています。

このような取り組みは、コスト便益と環境パフォーマンスの改善の両方をもたらします。

再生可能なエネルギーの有効活用は、総排出量を削減し、ネットゼロ目標を達成するための重要なステップでもあります。認定された適合性評価サービスは、再生可能エネルギー発電所の認証、風力・太陽光発電所の検査、洋上風力発電所の認証など、グリーンエネルギーにおいて重要な役割を果たします。認定された試験所は、新しい風力タービンの設置場所について、風速や遮光・騒音予測などの専門的な意見を示します。このように、認定を受けたサービスは、グリーンエネルギーの市場導入や再生可能エネルギー発電所の安全な運用に貢献しています。

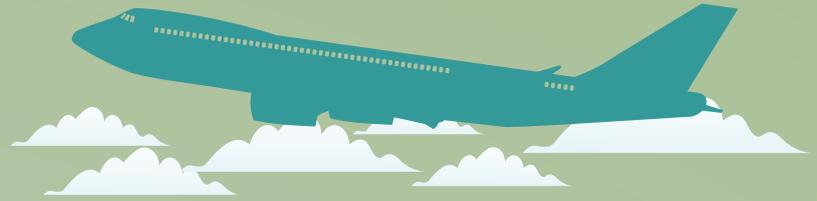


CORSIA

CORSIA (Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation)は、国際民間航空機関 (ICAO) が制定した世界共通の制度です。

国連の気候変動に関する政府間パネル

(IPCC) 第6次評価報告書によると、2019年の世界の炭素排出量に占める航空活動の割合は2.76%であり、この数字は今後飛躍的に上昇することが予測されています。CORSIAは、2010年のICAO総会で採択された「2050年まで年率2%のエネルギー効率向上」と「2020年以降のカーボンニュートラルな成長の達成」という2つの意欲的な目標を受けて設立されました。



CORSIA制度の目的は、2019年以降のCO₂年間排出量の監視・報告・検証(MRV)システムの実施と、2021年以降のCO₂排出量の相殺という、2つの重要な責務を航空会社が果たし、航空業界が気候変動に与える影響に対処することです。カーボンオフセットは、ICAOが承認したGHGプログラムが発行する排出枠を購入することで達成される見込みです。また、航空会社はCORSIA適合燃料を使用することで、排出量相殺の必要性を軽減することができます。CORSIAプログラムは、国連の持続可能な開発アジェンダに寄与し、CORSIAの実施を通じて航空業界はクライメートアクションをサポートし、経済的な持続可能性に貢献することを目指しています。

信頼性の高いCO₂排出量の算定報告書には、ISO 14065の認定を受けた第三者検証機関が不可欠です。例えば、メキシコの認定機関であるemaは、通信運輸省連邦民間航空局、全国航空運送会議所(CANAERO)、国際航空運送協会(IATA)と協力し、CORSIAの普及に取り組んでいます。

ケニア民間航空局(KCAA)は、2021年ICAO CORSIAフォーラムで、CORSIAの導入時に得た課題と教訓についてコラボレーションに重点を置いた講演を行いました。ケニアの認定機関は、KCAAのような組織がICAOに基づく要求事項に適合するために、現在、ISO/IEC 17029に基づく認定制度を開発中です。

スペインでは、スペイン国家市場競争委員会(CNMC)エネルギー総局がスペイン認定機関(ENAC)と共同で、UNE EN-ISO/IEC 17020規格に基づく熱電併給(コージェネレーション)のプラントのエネルギー効率条件の検査を行うための認定スキームを開発しました。このスキームは、独立した第三者検査機関が、コージェネレーションプラントの達成したエネルギー効率を検査し、その結果として発行した証明書の提出をプラントに要求するものです。エネルギー効率の最小値が達成されると、プラントは報酬をうけることができます。英国認定サービス(UKAS)は、2006年にマイクロジェネレーション認証スキーム(MCS)の開発を支援しました。UKASはこのスキームに加え、太陽光、風力、波力発電設備を審査する試験や検査機関の認定を行っています。

MCSの認定は、エンドユーザーに対して、再生可能エネルギー製品が目的に適合していること、設置者が設置の力量を有していることを保証します。同様に、再生可能エネルギーシステムの独立した検証や試験は、その潜在能力を発揮させると同時に、革新的でより効果的な技術投入を可能にします。

このように、気候変動対策において、認定と認定されたサービスは、産業界や政策措置双方にとって、排出量の削減と相殺に重要な一次的、二次的役割を果たすことが明らかです。

循環型経済を支える認定

経済活動が環境に与える影響を低減し、長期的な経済成長を支えるために、世界各国では、直線型経済(リニアエコノミー)から循環型経済(サーキュラーエコノミー)への移行が進んでいます。循環型経済とは、リペア、リユース、リマニュファクチャリング、リサイクルに重点を置くことで、廃棄物の発生量や資源の使用量を抑え、生産と消費が環境に負荷を与えない経済モデルのことです。

循環型経済のメリット：

- ・ 持続可能な製品ライフサイクルにおける、環境・経済・社会の側面に配慮します。
- ・ 新しいビジネスモデルやサービスを促進します。
- ・ 排出量を削減し、天然資源の消費と廃棄物の発生を最小限に抑えます。
- ・ 廃棄物について、自社工程での再利用や、他社への売却を通じた収益により、生産コストを削減できます。
- ・ 気候変動や消費習慣に対する認識を高め、経済と環境のバランスをとることで、社会的利益をもたらします。
- ・ 身近な資源を再利用することで、輸入原材料への依存度を低減できます。
- ・ 廃棄物の管理において環境に配慮した行動をとることで、組織ブランドを向上させます。

認定された適合性評価により、循環型経済の原則の遵守や実施を確実にすることができます。

EUの船舶リサイクル規則では、船舶のリサイクルに関連する悪影響を低減するために、独立した検証者が ISO/IEC 17020 検査機関として認定を受けている必要があると規定されています。

適格な組織によって行われる検証は、規制当局に対して、業務が効果的に実施されているという信頼を与えます。

持続可能性、経済性、認定はすべて、米国環境保護庁(EPA)の業務において重要な役割を担っています。

1970年7月に設立されたEPAは、エネルギー効率、環境管理、持続可能な成長、大気と水質、汚染防止を支援するプログラムに加え、基準と法律の制定を通じて、人間の健康と環境衛生を守ることを目的としています。

持続可能性を支援する EPA プログラムの例として、以下の2つが挙げられます。

- ・「WaterSense® (節水)」への取り組み
- ・「EnergyStar® (省エネルギー)」への取り組み

WaterSense と EnergyStar により認証された製品を試験及び認証する組織は、これらどちらのプログラムでもその能力を検証するための認定が必要とされます。認定された認証機関から ISO1400 認証を受けている IBM は、1995 年から 2014 年の間に、世界中で 20 億ポンド以上の使用済み IT 製品を回収・処理しました。

2014 年中に処理された量の 97% 近くが、リユース、リソールド(再販売)、またはリサイクルされました。

アメリカ品質インフラ (Quality Infrastructure of the Americas)、米州機構(OAS)の及び、ドイツ国立計量研究所が 2020 年から 2023 年にかけて実施している「循環型経済のための品質インフラプロジェクト-QI4CE」は、循環型経済を支える中南米・カリブ海地域のインフラ品質の能力強化を目指しています。

高品質のインフラサービスは、新素材、新製品、新技術の研究を支援し、生産と消費パターンが環境に与える影響を判断する上で不可欠です。

このプロジェクトは、高品質インフラと循環型経済の当事者間の協力とネットワークづくりを促進し、監督するものです。

循環型経済の原則への関心が高まり、環境に優しく、倫理的に調達された製品やサービスを求める消費者が増える中、持続可能性を証明することは、組織にとってますます価値あるものとなっています。倫理的な主張の下で認定された妥当性確認と検証によ

り、その主張の信頼性を保証することができます。

イタリア、UNI と ACCREDIA は、「UNI(持続可能な開発に対する責任の倫理的主張 (UNI/PdR 102:2021) への適用指針 ISO/TS 17033:2020 を発行し、組織が持続的発展に対する責任について、倫理的な主張を宣言する際に考慮すべき要素を特定しています。

SRI (Socially Responsible Investment : 社会的責任投資) と呼ばれる投資は、環境負荷の低減を目的とした活動を実践し、革新を続けている企業への投資に大きなチャンスとなります。

フランスでは、公的機関が企業に対して環境・社会・ガバナンス (ESG) の基準を自社の方針に組み込むことを奨励し、個人に対してはより倫理的で社会的責任のある、環境に優しい投資で個人資産を運用するよう促しています。

Coflac (コフラック) が認定する適合性評価では、これらの企業の主張を評価・検証することで、これが実践できるよう支援しています。

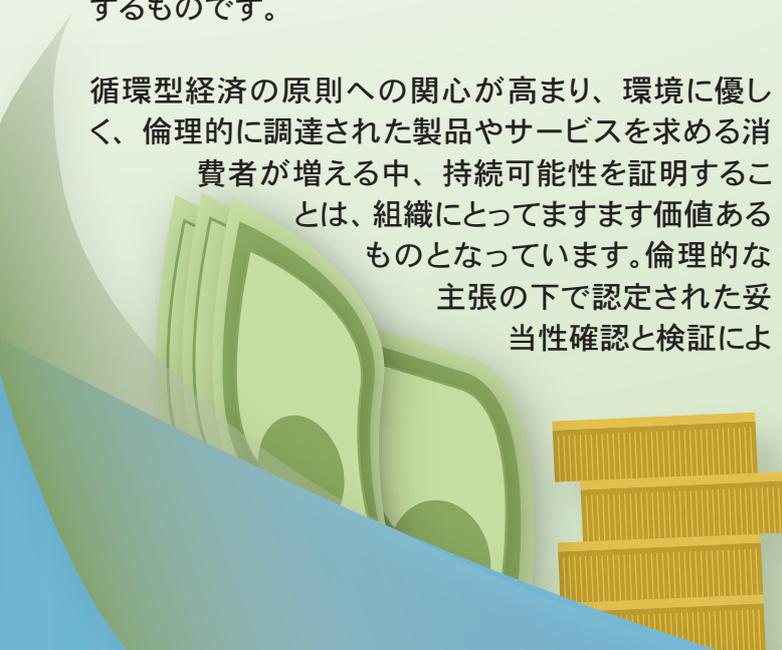
企業には証券が発行され、消費者へ ESG 宣言についての信頼感を与えます。

世界中の経済が環境保護という目標で結ばれています。

国連、規制当局、専門家団体、産業界は、これらの目標を達成するための計画を策定しています。

今、環境を保全し、経済を発展させ、人々の豊かな生活を実現するための活動を、責任を持って管理することが求められています。

第三者適合性評価サービスの認定は、持続可能で健康的な環境をサポートしながら、世界中の何十億もの人々に供給する持続可能なシステムを作るために必要な、製品、サービス、システムの適合性を保証するのに役立ちます。





認定

サステナブルな経済成長と環境をめざして



THE ILAC SECRETARIAT

Phone: +612 9736 8374
Email: ilac@nata.com.au
Website: www.ilac.org

@ILAC_Official
www.ILAC.org



**PUBLIC SECTOR
ASSURANCE**

publicsectorassurance.org



**BUSINESS
BENEFITS**

Evidence. Impact. Value.

business-benefits.org



IAFandILAC



THE IAF SECRETARIAT

Phone: +1 (613) 454 8159
Email: iaf@iaf.nu
Website: www.iaf.nu

international-accreditation-forum-inc

@IAF_Global
www.IAF.nu